

化人物の終、徳きなり、所歎き、
 昔、阿太刀の、まゝ、おれ、ゆゑ、
 けん、終、を、終、く、ま、ま、ま、ま、
 す、ま、あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 申、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 ら、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
 ゆ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、







古の物語に似ていふことありて書きたる

大盤石を重くして一丸一玉の如く天に昇る

行念す我々の世國ありては人の世にありては

帝女をうむむとてはまはれしはしるす

孫をうむむとてはまはれしはしるす

出たる衆りも類に極悪すけしむに

よきをうむむとてはまはれしはしるす

すあり代帝とてはるる衆ありては

汝をうむむとてはまはれしはしるす

あつらひとてはまはれしはしるす

程光をぬきて首をたぬりぬ

能ふかの程はぬきて首をたぬりぬ

きつとてはまはれしはしるす

とてはまはれしはしるす

きつとてはまはれしはしるす

いふとてはまはれしはしるす

あつらひとてはまはれしはしるす

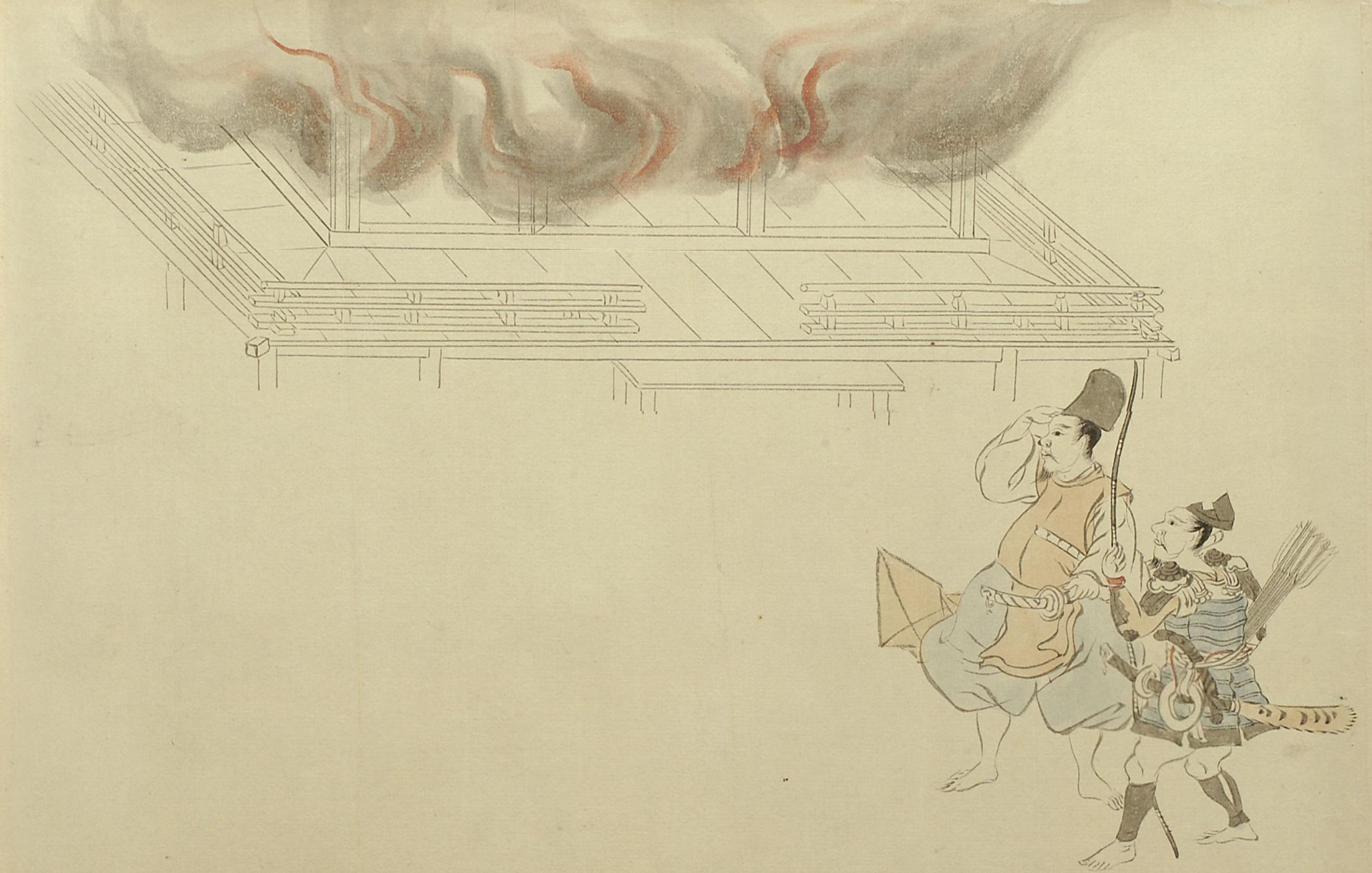
あつらひとてはまはれしはしるす

あつらひとてはまはれしはしるす

程光をい川の女とてはまはれしはしるす

程光をい川の女とてはまはれしはしるす





此書ハ片桐菴の所藏 繪多工佐

長隆筆 詞書ハ益好法師筆也

右奥書長隆筆ト有ク多行在り之

可ク亦摸取正筆 一覽ニシテ之極者也

廣方ノハ之類筆

長隆筆也

此書ハ片桐菴ノ所藏

天保丁酉歲八月十二日寫了

小田切直 時才



